

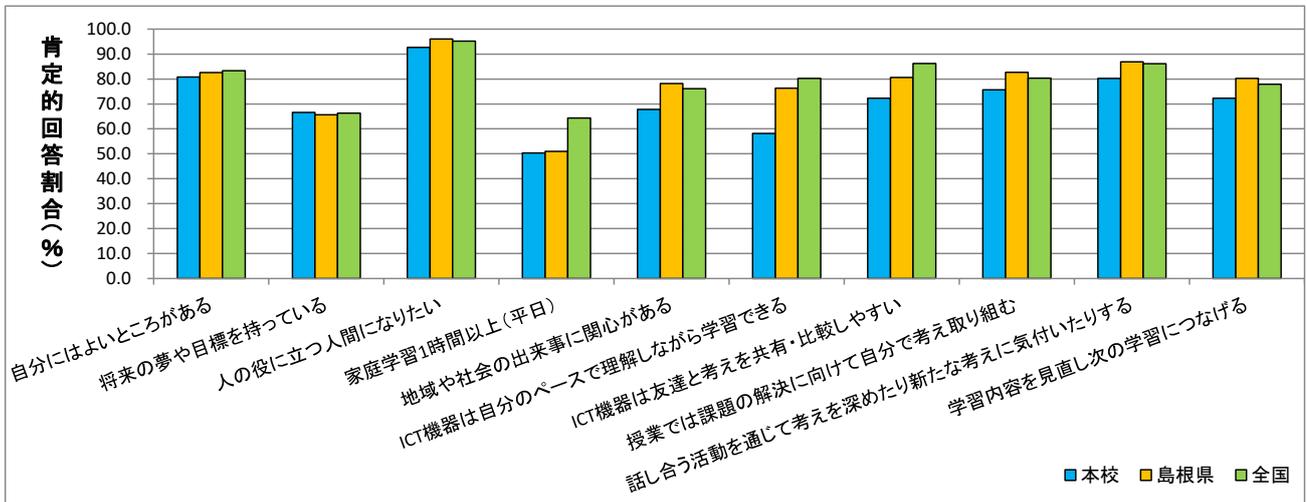
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
国語	○問題番号1の四までの話合いについての問題は全国平均も、県平均も上回っていた。特に「資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる」の項目については県平均を10ポイント上回っていた。 ●問題番号2四「目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる」の項目については全国平均は7ポイント、県平均は3ポイント下回っていた。	・授業や、課題等で文章を要約する活動を取り入れる。 ・話の要旨をつかむ活動を、短い文章からはじめ、徐々に長い文章にして取り組む。
数学	○問題番号2の「等式の変形」や、7(1)の「最頻値」、7(3)の「四分位範囲」は、全国・県平均よりも5ポイント近く上回っていた。 ○問題形式が選択式や短答式の問題は平均正答率が高く、第1四分位以下の生徒数がやや少数であった。 ●問題番号4の「一次関数」、6(2)の「説明の完成」、8(2)「式やグラフを用いた問題解決」は、全国平均より10ポイント以上下回っていた。 ●問題形式が記述式の問題は全国・県平均よりも下回っているものが非常に多かった。	・文章問題における必要な情報の読解や、グラフの読み取りができるように、国語科と連携して解決に向かう活動を取り入れる。 ・数学的な問題解決の説明および論理的な説明になっているかの判別ができるように、グループやペアで教え合うなどの対話的な活動と、相互評価などの活動を授業に組み込むようにする。

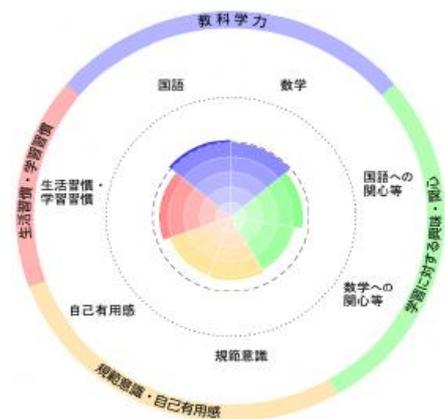
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
質問紙	○令和5年12月実施の島根県学力調査の時よりも、「将来の夢や目標を持っている」という生徒が増えている。 ●ICT機器の利活用を進める必要がある。 ●授業での話し合い活動や振り返り活動をもっと大切にすることが必要である。	・職員研修を進め、ICT機器を効果的に活用して、生徒各自が意見を交換し、互いに学びあうことができる場を増やす。 ・各教科、領域での授業づくりに共通する「約束」を改めて共通理解する。

(3)質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・「よい学級、よい授業、よい家庭学習」を目標に、毎日の自学指導などを通しての学習習慣づくりの徹底を続け、基礎的な学力をさらに付けていきたい。  
・一つ一つの教育活動において、「どんな力を生徒に身に付けさせたのか」の問い直しを続け、生徒の「人生の土台づくり」をひたむきに進めていきたい。

【受検者数】

196 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。